

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年々いても一人一人の個性を大切に「地域の暖かい環境の中で信頼されるよう交流を深めていきます。」を理念として取組んでいる。	○	地域行政の各種行事(舞踊まつり運動会、いきいき祭り等)や小学校(祭典会、運動会、クリスマス等)との関係ありを中心に実践している。今後も定着させ更に機会を拡大したい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に情報を共有化し互からいかにして地域の暮らしに溶け込んでいるのかを食頭に情報収集に努め実践している。	○	地域のみならず他の市町村で実施されるコンサートやイベントにも積極的に参加している。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては毎月手紙による近況報告や行事予定で情報発信し地域の中ではホーム独自の金踊り運動会の行事や地域の方を中心としたイベントで構成した業4推進会等の中で情報発信し浸透を図っている。	○	今期発足した家族会や地域の自治会、身代金業4推進を中心に進捗を深めて情報発信し共同作業をすすめるから更に理解を深める。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時や日々の入居者の散歩途上や声掛けの挨拶を交すことは当たり前となり「頑張っね」との励しもある。しかし立ち寄って頂くためにはもう一歩ある。	○	ホーム独自の金踊り、運動会、和洋折衷による日本舞踊、コンサート等の一部参加を得ている。更に開放拡大したい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	資源ゴミ処理の委員会、町主催の運動会、生き生きまつり、舞踊まつり等参加可能な地域活動については積極的に交流すべく努めている。	○	自治会、老人会等可能な限り行事を共同企画し企画し交流の場を広げていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	検討の段階ではあるが、日常散歩して いる神社やゲートボール場の草取り清掃、 花たん作り、花植えに参考参加している。 又高齢者に対しては、地域の喫茶飲み 社交スペースとして開放提案する。	○	地域の自治会や老人会との連携を 密にして、現行のメニューを検討し 先ずは利用者と共にできる内容のもの から取組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	セミナーにも参加し、誰の為に何の 目的が必要なのかをミーティングでフィードバック しながらメンバー間、一つのチームとして情報の 共有化をはかっている。改善項目についても ミーティングで行なう企画で取組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	家族、地域住民、行政とメンバー 編成で毎月1回サービス内容や取組み状況の 経過報告をし意見を集めて日々のサービ ス向上に活かせるものは適宜に取り入れている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	所担当者の専門窓口を明確にして運営 推進会議に際して報告、連絡相談をしつつ 利用者の立場に立ったサービスの質の向上 改善に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	各種セミナーや講習会で学んでいる ものの職員全員が制度を理解し活用 しているとは言い難い。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法のセミナーに参加しミティ ングで報告し常に利用者の立場に立った 介護に努めるよう注意し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ずアセスメントを実施 その結果を記録しその後の生活の中で 不安や疑問点が障害とならないう配慮を している。契約解除時にはお客様の立場 をとり理解・納得を求めている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に利用者意見の反映の場は設けては いるが常に意見、不満、苦情等に 関しては傾聴し検討して行くことは 直ちに対応する形にしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回定期的に近況報告や行事 スケジュールを中心に情報を提供し その中でコミュニケーションを図っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を発足し今後定期的にその 機会を設け意見、不満、苦情を年約し 運営の中で反映し生じていく。	○	家族会会費を2ヶ月に1回を月別に 徴収し意見の集約、反映に努める。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な庁アカンパリス、職員研修 等での意見、提案を年約し反映を させている。	○	月1回スタッフミーティングを実施し 運営全般に関する改善や意見反映に 努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に利用者を最優先とした変化に 対応する臨機応変な勤务体制を 前向きに調整し話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の支援を最優先として適材適所の配置に配慮して職員の異動配置を実施している。 従って職員の定着化策が課題		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤続状況や段階に応じて職場ポストの送りつけや外部セミナーの参加の機会を確保し、OJTを強化している		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部セミナーへ積極的に参加する機会を設けることにより同業者との交流やネットワークづくりの場を提供し、その中からサービスの質を向上させるための取り組みを求めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフミーティングや定期的な1対1の場を設けることによりストレス軽減のための一つの対応策としている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や実績、勤続状況に応じた評価と待遇を行っている。また、働かせかたを持って定着するよう公平な取り組みに努めている。	○	職員の定着化によるサービス向上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に面接をしてアセスメントを作成しその後ケアプランと見直しを生かすようにしている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様のアセスメントに反映させ情報を共有化しながら今後の対応改善に役立てている	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅へ訪問しなどの必要サービス支援を望んでいるのかをヒアリングし本人と面接し家族の要望をふまえて特売、デイサービス等の対応も検討している	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する前にしばらく現場案内としてこれより入るであろう居室をはじめ職員他の利用者とも面談をさせると全体の雰囲気を感じ取ってもらうようにしている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは何でもやって頂きたいという所をお手伝いする。そして出来るだけ教える。人生経験豊富な利用者には教えて頂くスタンスで接している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	主に手紙による近況報告を月1回、その他ホ-ム主催の誕生会、運動会、盆踊り等のイベント活動により一緒に居るシステムを構築している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会の組織を結成しあらゆる活動を通じて本人と家族の橋渡しの場を提供するサービスを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもホ-ムへお越し頂けるようオープンにしその場所を提供すべく支援に努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者同士の関係を観察しからタイムリーに居室移動する等、明るく楽しい生活のためより気を配っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状等により引き続きコミュニケーションを大切にする取り組みを強化している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面接でアセスメントシートに反映させると共に一人一人の個性も大切にしている。その後のケアプランにも役立てるようになっている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族との面接を丁寧に行い、所定のアセスメントシートに記録してスタッフ全員で情報の共有化に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	上記同様アセスメントシートにより本人の暮らし、過ごし方、心身状態等を総合的に把握し、ケアプランの作成に生きている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を面接等で取り入れ、その後子-4として観察し検証し、本-4内部でも幅広く職員の意見を取り入れ、ケアプラン、介護計画、ケアプランに生きている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	予め定められたケアプラン、居室担当を中心とした介護計画にアンマッチが生じた場合は、期途中で見直し作業を行う。本人、家族、子-4スタッフ共に充分話し合い、実態に即して変更している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	予め設定したケアプランに基づいた個人記録を毎日行なりと共に月一回居宅担当者とのミーティングで評価、見直しを行なうのにより改善し予-4として情報の共有化を目的に介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護タクシーと提携し異物、病院受診、その他外出等ニーズに応じた支援を行なりと共に金銭管理も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日本舞踊クラブ、美容サロン、地域文化、教育機関等と協力、協働しながら支援しているが、民生委員、警察、消防、自治会等は課題である。	○	地域自治会、老人会、子供会等との協力協働関係を構築して行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	機会ある度に他地域のケアマネジャーサービス事業者との情報交換を密にしてそれを参考とした支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎月一回率々推進会キを開催しそのメンバーの一員として包括支援センターから依頼し意見交換、情報交換、アドバイス等受けるから協働を促している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医 眼科 産科 等 家族の納得を得て適切な医療を受けられるよう支援している。特に内科医については毎月1回 1-4名の往診支援を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	上記の受診支援は行なっているが認知症専門医の受診支援の構築までには至っていない。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週水曜日 居室担当者から医療連携表を作成しグループの看護師が巡回による健康管理、医療活用の支援システムを構築している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際の医療機関と設定し常に連携すると共に情報交換相談に努め安心して過ごせるよう、又は早期退院ができるような体制を構築している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方、方針に際しては家族やかかりつけ医と話し合い情報の共有化をはかっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在対象者はいないが、かかりつけ医と共にできること、できないことを明らかにし子-4としての取り組み、専門医の診断、意見、臭申による支援策はできている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>スタッフ、メンバー間であってはならないこととしてお互いに注意しながらミーティング等でも重要事項として常に注意するようよびかけている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己主張のできる風土作りを始めるから一日一日を大切にできる限り納得して生活のできるような支援を心がけている</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の個性を大切にできる限りゆっくりにして居る雰囲気作りを始めるから無理強ひすることなく一日一日を明るく楽しく過ごすための支援に取り組んでいる。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的にはホーム出活のボウリングで対応しているが希望者には行きつけの店でおしゃれができるよう支援をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のカット、みそ汁作り、デザート作り等の準備や、盛り付け、食器洗い、食器拭き、米研ぎの後片付けに至るまでできる限りの作業も一緒にできるよ支援している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこはメタボリックシンドロームの方もおられ日常的とは異なるので、誕生会やお祭り等がある場合は一部の方に酒をおすすめしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄チェック表を作成記録し、自力不可能の方はスタッフの良時誘導をしながらそのデータを基にオムツの着用を減らす改善に役立てている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日4~5人可能な限り希望や状況に合わせて入浴介助を行なっている。 夜間入浴も含め可能な限り公平且つローテーションにより楽しめるよ支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事の時間は設定しているが、安眠、休息の時間は個人の生活習慣やその時の体調や状況に応じた休息支援を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントシートに基づき実状に照らし合わせて一人一人のケアプランを作成し日々子-4としての張り合いを高めるようにも感じられ支援している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2~3名の方ではあるがお金を所持して買物も自己完結で支援している。但し必要最小限のお金を財布に保管するより調整している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日常は全員を対象に付近のゲートボール場や神社へ散歩に出ている。 その他野茶などの買出しの際にも徒歩同行をすすめている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・毎月の行事スケジュールの中で善後には行けないうちの外出支援の行事企画を行ない、家族も参加できる機会をつくり支援をしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・月1回の近況報告の手紙の中へ願ったり都度手紙のやり取りの希望のある場合は支援をしている。 電話についてもニーズがあれば支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・理念や運営方針にもある通り今までと同じようにありのままの生活と暮らしの中で気軽に訪問できる雰囲気作りと支援を共にあもてなしの心をチームとして表現できるより努力している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部セミナーや講習会にも参加しその中で禁止の禁止の対応となる具体的な行為を全メンバーに周知徹底し身体拘束をしないケアの実践の重要性を認識して目の見直しと安全を支える介護支援に生きている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・運営者と全ての職員は居室や日中玄関に鍵をかけないケアのメリットを理解し実践に取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は利用者のプライバシーに配慮しながら昼夜は勿論のこと特に夜間は2時間置きに各居室へ訪室して安否の確認、安全の確認を実施している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・できる限り自己管理のできる入居者は注意の必要な物品の保管・管理も促して一人一人の状態に応じたケアプランに反映させる等、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・各種セミナーや講習会に出席して事故防止のための知識を習得し一人一人の状態や特徴に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変や事故発生時に備えて緊急連絡網は構築しているが職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に実施するのは至っていない。	○	・消防署との協力を依頼して救命技能を習得する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・いざという時の有事に備えて避難訓練を実施している。 しかし地域の人々の協力を得るまでは至っていない。	○	・地域自治会との協力体制の構築と情報交換

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一日手洗いの始まり手洗いで終る。その他掃除、トイレ介助等、こまめに手洗いを励行する。分室のまな板、スポンジ、食器類についても毎日消毒をする。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・冷蔵庫と食材の担当者を決め特に冷蔵庫は週1回賞味期限のチェックや整理整頓、消毒に努めている。野菜についてもメモによりいつ入荷したのか明確になっている。 *調理用具は78と同様		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は日中錠をひきずオープンにしてあり自由に出入りができるようにしている。 ・玄関回わりには季節の花の鉢植えを置き、ケル・ポ・4の着札を掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間にはできるだけ半柄子や歩行の障害にならぬように物を置くことは控えている。 ・特に玄関、リビング、和室には季節の花や飾り付け、入居者の方の作品を掲示している。 ・又廊下の壁は各行事等で撮った写真の掲示スペースとして活用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはソファを設置し和室好きの方には掘ゴタツで足を伸ばしリラックスして過ごせる。外の空気を吸ったり一人になりたいた時はテフキのベンチ、玄関前のベンチ(心地よい)お茶も自由に飲めるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室内は入居者の力に応じて調度品等に 関してはセッティングし本人等と相談し ながら基本的には余分なものは置かすに できる限り広く使えるよう工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・生ゴミについてはこまめに集め外の 収納ボックスへ保管するよう配慮している。 リビウの温度調節は外気温と大きな差を生じ ないよう配慮し居室については本人の好み に応じて1~2時間と短時間様子見するよう している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かし、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	各居室や廊下には手摺りを設置して 転倒防止に配慮している。トイレに 関しても車椅子の手摺りを使用して容易に 立てるために工夫している。又各居室や トイレの扉も楽に開閉できるように配慮 している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室には氏名札を、トイレ、浴室、バル 風呂場等にも掲示して自分ができる ことは自分でやって頂けるよう配慮して いる。又利用者の衣類整理ケースは掲示 して整理しやすくしている。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	デッキにはテーブルとベンチを設置して外周 りからお茶を飲む等寛げるようにしている。 外周りについても園芸好きの利用者には 季節の花を植える種をまいたり、直接土に ふれながら活動し楽しむことができる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いっも明るく、楽しく、一日一日を大切にしながら、できることは何でもやって頂き、できない箇所をお手伝いする。
 そしてできる所は誉めてあげ、会う度新鮮な気持ちで接していく。利用者様は日々変化しており、小さな変化を見逃さない。
 以上をモットーに取り組んでいる。
 又、毎月何らかの行事企画として利用者様に楽しんで頂き、その様子やホームでの生活の様子を近況報告として手紙と写真でご家族へ報告し、利用者様とご家族の立場に立つコミュニケーションと、利用者、ご家族、職員、三位一体としての介護を目指している。